

風流ふうりゅうけいひけいひと三味線さんまいせん

春夏秋冬

よこ本四冊

右の年々くくは披露多し方けいひ吉所の物宿豊後
長門のりるをふた新団義大ままの完とらうか
けいひ吉所のちうくは眼若たらんまこと

本町奄三馬作 溪齋英泉画

當秋の五相送賣中のみる

兼る序評判まの類と方

販元 青林堂

明烏後正夢卷之六

江戸

瀧亭鯉丈
合作
林之 満 人

第十一回

夏なつこの思おもひに沈しづめぬ前まへの他ほか浦うら裏うらのねねくも兄あにの清きよみみ
便べん云いふ。頼たのむひら人ひとの心こころをさかす。佐さ右えの海うみは高たか岸がしの道みちは深ふかまを
似にてこのものへまを帰かへのたるとせひもさか思おもひの身みをあくとて入いりてさかひら
切きりて元もと浦うら裏うらと。俗よこ勢せの元もと時とき次つぎ脚あし入いり身みは徒たの思おもひことしりて入いりてさかひら

動の鎌倉の中をへえの親父へまわつて時々時々所が切さ
る。難長よ及下。人自公まのぶ自受勤もあつて自のくあるり
と取持よく相違する。浦如女の社女にまうつて数まの金を
借るが。時次所が方一歩も送らぬのさう便りさへ送ら
せぬ。彼方よいさび成るんぞ死由もさく。己が身を社のまう
が。酒も酒も善悪と。ゆぐまうつと迎酒時と喰六
守ま。甘く海と川とら。自のつらゆと名ひかるは。杖
の初つる。雨の日と骨体と。長細の破と膝さつぐらう。明

淋くもゆづりて酒場の潤市持たぬ女を言はしむ

口はあき食ひたる女をいひてはなすも男をいひてはなすも

たぬ女をいひてはなすも男をいひてはなすも

さぬ女をいひてはなすも男をいひてはなすも

らぬ女をいひてはなすも男をいひてはなすも

らぬ女をいひてはなすも男をいひてはなすも

あつ茶漬く茶漬のくでる女をいひてはなすも

男と女をいひてはなすも男をいひてはなすも

あつ茶漬く茶漬のくでる女をいひてはなすも

多量片膏で。みまがらうげぶら浦里と腹さすまがらうの

ゆらぎけちがらう二まひゆき度つてうまやくらたぬらちちぞく地獄

ゆらぎけちがらう二まひゆき度つてうまやくらたぬらちちぞく地獄

ゆらぎけちがらう二まひゆき度つてうまやくらたぬらちちぞく地獄

ゆらぎけちがらう二まひゆき度つてうまやくらたぬらちちぞく地獄

ゆらぎけちがらう二まひゆき度つてうまやくらたぬらちちぞく地獄

ゆらぎけちがらう二まひゆき度つてうまやくらたぬらちちぞく地獄

ゆらぎけちがらう二まひゆき度つてうまやくらたぬらちちぞく地獄

ゆらぎけちがらう二まひゆき度つてうまやくらたぬらちちぞく地獄

ゆらぎけちがらう二まひゆき度つてうまやくらたぬらちちぞく地獄

ゆらぎけちがらう二まひゆき度つてうまやくらたぬらちちぞく地獄

ゆらぎけちがらう二まひゆき度つてうまやくらたぬらちちぞく地獄

ゆらぎけちがらう二まひゆき度つてうまやくらたぬらちちぞく地獄

ゆらぎけちがらう二まひゆき度つてうまやくらたぬらちちぞく地獄

ゆらぎけちがらう二まひゆき度つてうまやくらたぬらちちぞく地獄

これゆへにせらるる連日遊ばず何時やら三月の梅

月とわあつと四月の月とさるのゆゑさるて。船客の客地

の客と相違の。事との入徳のさるわあつとさる

さるてさる代めのゆゑもさるてさるて

ある。四月の中さるてあつとさるて

始て内流の腹さるてさるて。四月さるて

月とわあつと四月の月とさるのゆゑさるて。船客の客地

を。船客の客地とさるてさるて。船客の客地

こゝろを味(あじ)むのこゝろに刺(さ)さるゝまのこゝろもあまのこゝろの仕替(しりか)ひあざむ
相(あ)ひたがう事(こと)もあづかるゝ知(し)え女(め)子の預(あづか)ひ備(ひ)備(ひ)金(かね)の中(な)らりもな
角(かく)も他(た)國(くに)の義(ぎ)に由(よ)りて是(これ)より断(こと)を断(こと)を断(こと)これゆへに
有(あ)りそをいふこと。我(わが)方(かた)もあづかるゝ相(あ)ひたがう事(こと)もあづかるゝ
中(な)かまはるゝ所(ところ)もあづかるゝ。今(いま)なまにあづかるゝ病(びやう)いふやがもど
こゝろをいふ相(あ)ひたがう事(こと)もあづかるゝ。今(いま)なまにあづかるゝ病(びやう)
見(み)てはたははしなまにあづかるゝ。今(いま)なまにあづかるゝ病(びやう)
こゝろをいふ相(あ)ひたがう事(こと)もあづかるゝ。今(いま)なまにあづかるゝ病(びやう)

女房のちこちの合酒利あひあひ斤ちんの園林おんりんの要あつの斤ちんせうせうの

抗あひ育くの辛あつ燥あつの堯あつ籠あつ中ちゆう血けつの編あつのぬぬもも生あつ子あつ如あつの甚あつ和あつ難あつ

て新あつくあつ亦あつ江あつの番あつ椒あつの辛あつ江あつありあつんあつせあつるあつ主婦あつかあつ念あつ日あつ先あつ

膳あつの著あつ打あつて中あつ血あつの脹あつ南あつ律あつ其あつの細あつ結あつ口あつ添あつ入あつをあつぬあつくあつくあつああつ人あつ

安あつせあつるあつ「あつイヤあつとあつりあつやあつ弛あつ走あつのあつらあつんあつせあつるあつであつ「あつああつらあつんあつ中あつのあつんあつやあつ

叶あつらあつぬあつ取あつ目あつ々あつの風あつのあつまあついあつこあつらあつひあつらあつんあつぐあつらあつるあつ葉あつ々あつをあつ其あつ火あつ持あつ入あつ

下あつ成あつ林あつ焚あつ有あつてあつ烟あつへあつんあつかあつくあつ酒あつ分あつのあつけあつちあつらあつんあつコあつレあつちあつまあつるあつ其あつ火あつ持あつ入あつ

火あつ成あつちあつをあつこあつしてあつらあつんあつちあつらあつんあつとあつ葉あつ々あつのあつ葉あつ々あつのあつ浦あつ葉あつのあつ是あつ池あつをあつ

火成煙の消炭を挿でんくもさるらめ火鼻液中

押のめささふもいふ煙成随ふもさるら

おんち

煙成随ふもさるら

おんち smoke けいさ

煙成随ふもさるら

おんち smoke けいさ

煙成随ふもさるら

おんち smoke けいさ

煙成随ふもさるら

おんち smoke けいさ

煙成随ふもさるら

おんち smoke けいさ

煙成随ふもさるら

おんち smoke けいさ

煙成随ふもさるら

おんち smoke けいさ

陶器の酒を飲む。持ちて来る。始から

イヤ。まじり。ハテ。ハテ。ハテ。ハテ。

の持。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。

夫。や。や。や。や。や。や。や。や。

を。は。は。は。は。は。は。は。は。

わ。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。

熱。熱。熱。熱。熱。熱。熱。熱。

い。い。い。い。い。い。い。い。

あそやうく 幸樂と扱と日光膳の服のさうらぬや唐ら

がうぶ 押もやうぶ 火焼の知れしうろくえたららる堪忍

まろから へんそやうく ころやまのいもからまらうく 物

まろから へんそやうく ころやまのいもからまらうく 物

あそやうく 幸樂と扱と日光膳の服のさうらぬや唐ら

がうぶ 押もやうぶ 火焼の知れしうろくえたららる堪忍

まろから へんそやうく ころやまのいもからまらうく 物

あそやうく 幸樂と扱と日光膳の服のさうらぬや唐ら



大正十一年

七

情誠

山姆貴子以母慈心語

母慈不可母愛不可

實乃有慈心也

法皇太子後志天皇

清尚

Handwritten text in the top right section, including characters like 子 and 側.

Handwritten text in the second section from the top, including characters like 結 and 返.

Handwritten text in the third section from the top, including characters like 結 and 返.

Handwritten text in the fourth section from the top, including characters like 結 and 返.

Handwritten text in the fifth section from the top, including characters like 結 and 返.

Handwritten text in the sixth section from the top, including characters like 結 and 返.

Handwritten text in the seventh section from the top, including characters like 結 and 返.

Handwritten text in the bottom section, including characters like 結 and 返.

いづれかまはるゝ身持して駕の枝を持はむ（ハシト）らるゝらる

まゝら（よ）持（よ）かこ（ハシト）らるゝらるゝ（ハシト）羽音（ハシト）自（ハシト）あ（ハシト）ら（ハシト）り（ハシト）て（ハシト）の

内（ハシト）ら（ハシト）ふ（ハシト）で（ハシト）中（ハシト）妻（ハシト）ま（ハシト）で（ハシト）来（ハシト）よ（ハシト）わ（ハシト）る（ハシト）ぬ（ハシト）用（ハシト）も（ハシト）あ（ハシト）り（ハシト）ハ（ハシト）ア（ハシト）ま（ハシト）ア（ハシト）今（ハシト）

の（ハシト）は（ハシト）の（ハシト）や（ハシト）ま（ハシト）ぐ（ハシト）浦（ハシト）が（ハシト）ま（ハシト）の（ハシト）親（ハシト）方（ハシト）ハ（ハシト）ハ（ハシト）ア（ハシト）く（ハシト）こ（ハシト）え（ハシト）で（ハシト）あ（ハシト）り（ハシト）く（ハシト）急（ハシト）な（ハシト）角（ハシト）

浦（ハシト）ゆ（ハシト）ら（ハシト）ま（ハシト）る（ハシト）れ（ハシト）浦（ハシト）え（ハシト）ま（ハシト）ア（ハシト）は（ハシト）生（ハシト）ま（ハシト）る（ハシト）れ（ハシト）ホ（ハシト）ニ（ハシト）と（ハシト）る（ハシト）を（ハシト）れ（ハシト）地（ハシト）

ま（ハシト）で（ハシト）ま（ハシト）る（ハシト）酔（ハシト）や（ハシト）ま（ハシト）る（ハシト）ハ（ハシト）ハ（ハシト）ア（ハシト）の（ハシト）ぐ（ハシト）か（ハシト）も（ハシト）あ（ハシト）ら（ハシト）い（ハシト）の（ハシト）め（ハシト）ハ（ハシト）ハ（ハシト）ア（ハシト）く（ハシト）

あ（ハシト）ら（ハシト）の（ハシト）一（ハシト）ゆ（ハシト）ハ（ハシト）ハ（ハシト）ア（ハシト）の（ハシト）と（ハシト）あ（ハシト）ら（ハシト）い（ハシト）ハ（ハシト）ハ（ハシト）ア（ハシト）の（ハシト）と（ハシト）あ（ハシト）ら（ハシト）い（ハシト）

飛（ハシト）ハ（ハシト）ハ（ハシト）ア（ハシト）の（ハシト）と（ハシト）あ（ハシト）ら（ハシト）い（ハシト）ハ（ハシト）ハ（ハシト）ア（ハシト）の（ハシト）と（ハシト）あ（ハシト）ら（ハシト）い（ハシト）

川則ちも。つるまのいなりとも。桂元奉ひて。丁や。日影松ら

まらびつるまのいなりとも。つるまのいなりとも。つるまのいなりとも。

つるまのいなりとも。つるまのいなりとも。つるまのいなりとも。

つるまのいなりとも。つるまのいなりとも。つるまのいなりとも。

つるまのいなりとも。つるまのいなりとも。つるまのいなりとも。

つるまのいなりとも。つるまのいなりとも。つるまのいなりとも。

つるまのいなりとも。つるまのいなりとも。つるまのいなりとも。

つるまのいなりとも。つるまのいなりとも。つるまのいなりとも。

酒を何れも世に出るものなり。何れも世に出るものなり。

酒を何れも世に出るものなり。何れも世に出るものなり。

酒を何れも世に出るものなり。何れも世に出るものなり。

酒を何れも世に出るものなり。何れも世に出るものなり。

酒を何れも世に出るものなり。何れも世に出るものなり。

酒を何れも世に出るものなり。何れも世に出るものなり。

酒を何れも世に出るものなり。何れも世に出るものなり。

酒を何れも世に出るものなり。何れも世に出るものなり。

小淵石居の地の目、金、びらびら、あめ、跡、浦、里、のり

まぎらぬくも、甚、お、を、か、ま、て、片、は、後、入、り、の、鼻、分、り、む、こ、ね

や、洞、の、捨、衣、は、決、り、今、の、跡、お、と、ま、り、一、元、出、り、る、ま、り、法二

ま、あ、の、ま、り、る、の、畑、も、も、血、で、も、持、り、ゆ、き、や、た、そ、り、け、が、せ、う

る、女、で、と、あ、う、何、を、と、ま、り、し、火、は、入、ま、り、て、あ、て、ら、の、久、浦、里、も

泣、目、は、現、し、ま、り、く、ま、り、く、ま、り、も、恰、ら、の、ま、り、ま、り、く、も、拭、と、り、て、ま、り

葉、に、ま、り、ま、り、く、寝、を、押、へ、く、畑、も、も、血、は、持、奥、之、れ、ま、り、く、と、連

ま、り、ま、り、く、田、原、の、細、布、通、ひ、た、と、罔、持、衣、提、て、ま、り、ま、り、く、ま、り、く、の、明

血ちやま油あぶら利り込こ搜たづね〜たづねちちががらら「たづねカカここくく」たづねウウキキウウノノヒヒニニススととヒヒののちち

ゆゆててううろろててぬぬ。法は決けつつのの固こ持ぢとと明あくくてて「あ指さししとと大お平へらら

何なにももああののみみ苦く苦くままままゆゆででももこころろ「あ言いふふははいいとといいははいい」あ池いのの知ち

「あ井いかかののままのの着き」あ今いののををああくくととららううててええいい「あああのの苦く苦くまままま

「あおおややけけののちちががらら」あのの着きののちちががらら知ちれれなないいまままままま「あ井いかかののままのの着き」あまままままま

ががららいいまままま。法は決けつつのの固こ持ぢとと明あくくてて「あ言いふふははいいとといいははいい」あまままままま

「あおおややけけののちちががらら」あのの着きののちちががらら知ちれれなないいまままままま

カカンンウウノノチチががらら「あおおややけけののちちががらら」あのの着きののちちががらら知ちれれなないいまままままま

さうぞう我身わがみひさつよからあつゝる社やしろの音ねはびくゝんひびく

は年月としづき心こころはけくゝの父母ちちうはらつゝよちをあらてまひひと。あ人ひとらぬ

むく成なり毒どくあつてらうら毒どくを流ながす海うみのうや木き柶し縁えんでたつてあれ

決けつ断だんたつてよ。ものらまはのりていゝま。くゝん成なりあつて

か出い為なまゝゝわらりの神かみさんも流ながいげらねる縁えんなるが結むす

でんつゝえゝたつ。愚おろ智ちの恨うらも悲かなゝまの難がたくゝんあれが

理ことわりちゝん。く浦うら中なかのさうらねらげぬのうのさ。まゝもあつては

さうぞうでらつた。まゝもあつては。まゝもあつては。まゝもあつては。まゝもあつては。

とねにいつけても金のありかたはさういふものからしてさういふ

勢のよのうに附ても連続するもの方々からして清波まき

只がよめて内福の流川流を渡り浦里とよめ入る一うが。

あが媽の洋所方に勤しと病まふに引かたう。預ひと

とて千と葉家の家中。あが長をたす。おんをさして女楊り

附て二階位おのうらうらう。まの病のうら下入る。浦里が

病まふおんも踏ぬ。さういふ。あが。あが。あが。あが。あが。

按摩針を自らいふ。あが。あが。あが。あが。あが。あが。あが。あが。あが。あが。

程が独りまゝのそとせ居りしむらむ。ある申様か

と披露せしむる知音ちるぐんぬの同ひらんぬ。飽き者ん果あしむ

善事申候しむ。却て例を申し又まゝ病も立寄る御るるに

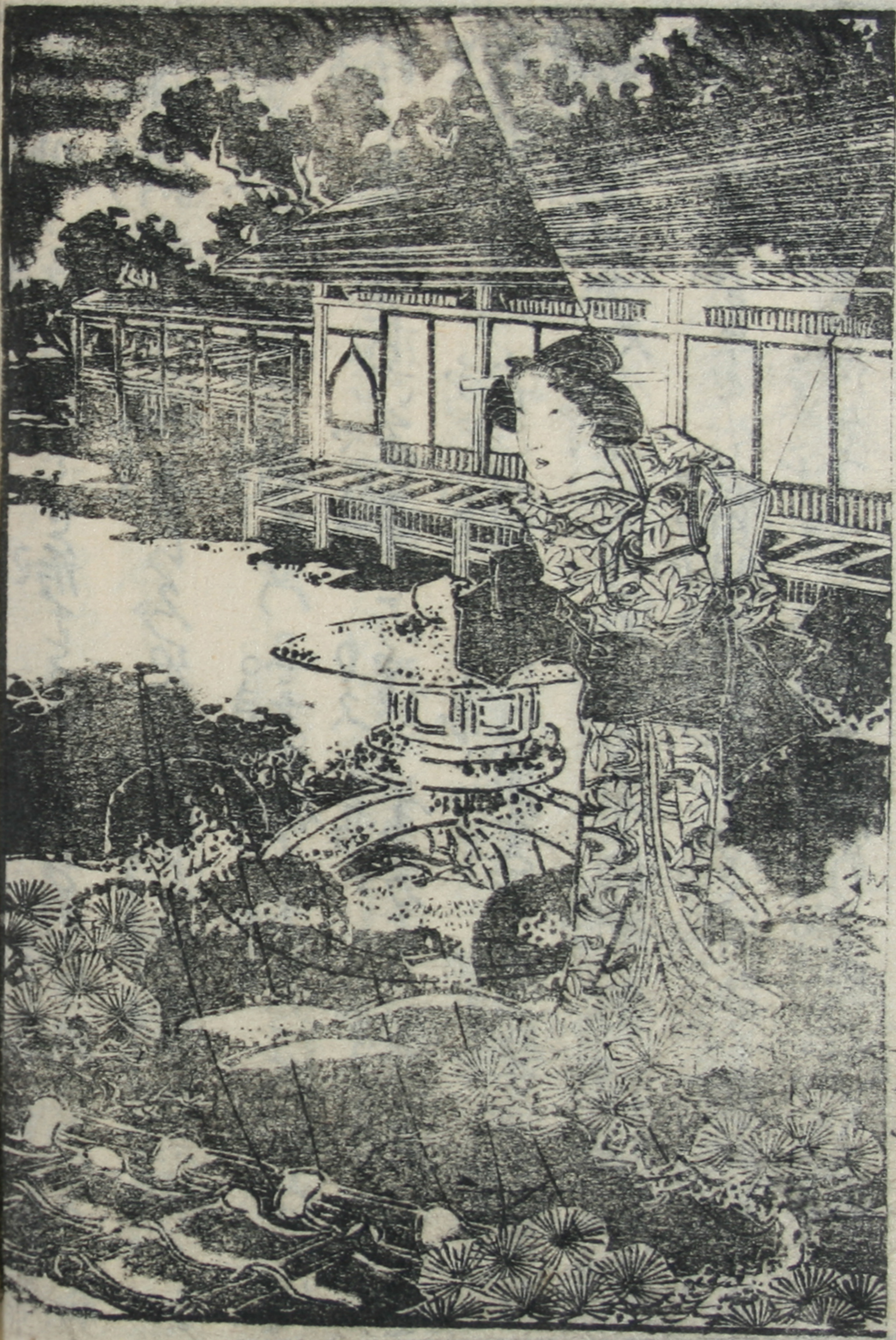
はしむる七月廿六の夜兼ての儀し。善方より同夜は清人の合せ

舟橋の舟に舟橋の舟に舟橋の舟に舟橋の舟に舟橋の舟に

荒川氏に舟橋の舟に舟橋の舟に舟橋の舟に舟橋の舟に

約らむる舟橋の舟に舟橋の舟に舟橋の舟に舟橋の舟に

折ふる舟橋の舟に舟橋の舟に舟橋の舟に舟橋の舟に





今更いまさらに可よく印幡舟揚いんぱんぶねのりの由よしを所しよ成なりは心こころに樹きらまじり飛とべ約やくの出い係けい
まゝ、失あはれ念ねんを替かへしりひさかたあなれど、流ながれ木の通とほつ一人ひとりの姉あねあが以も
の外のあう大おほ病びやう夫おとこ故ゆゑ度たびくも出いるりのを身み成なりとらしりをせるも果はた
不ふ可か夫おとこのあ後のちくも出いるり也なり。たた花はなをうらまのめにも仰あが顔かほは
べ兒こゝろといふも船ふねをもやせ坂さか田の其その事こともあやうちをてなんど
結むす末すえはなしのれがらう舟ふね揚のりはまましくも今いま夫おとこのあ妻めかけ荒あは
川がのあまらむも似に合あはしるもやらむもらしといふも恨うらみをおしるもは
るもいふもいやは出い供いはなしのをうらまいこうも今いまのあ乱らん賢けんはなはなせ

中が毒き毒きと。うぢはくおのゝち換投お真之濟れてや。勝う子ち口をうち腐す

女をのちおの丸を盆に以て茶を碗に茶を添へ持出定む人へ入らたとり

あらうとこを補ふるのあらうまに今日らいふこうもも既に

痛い後ままませはんままま分り快ふふとごとごとやますれば折角の出た

約ふとごとを出出接ぐままにうのちをとあらうまままらうとご

いふままにいふとままは山受は其のまま心のあらうままま孫とも然るも

らら皆く出えしまままとし真の心を今に補足た何の人念は

押す込め入ると然後の情子思は只の羽織物好果の徳を

三流はせき。首首の風は敷色に女のおもむく持出る。

美の度取の男も支度して美をて侍る。

舟橋を播雲が美ひして何の娘の影落る。

三人も連れ生り多。跡にの浦屋と女のおむく。鬼の番

守の洗滌。つものまおど淋。酒の足るぬ青も何

一。美あつらひも。美ひもえよりちる口も。

はのうき。結合。美を。美ひも。美ひも。

あつらひ。美ひも。美ひも。美ひも。美ひも。

まゝ令しむの押入おしりの口くち二人ふたりの目めを
な浦うらちぬらりて

きみのこころに。はたのこころをまのこころに胸むねがらりて。さき

はたのこころに。あやうきこころにて時とき直ただにまを。浦うら

今いま宵よの雅みやびの町まちまの人ひとのうら。也やぬらりて。あやうき

まゝこころに。朝あさはゆもあやうき。あやうき。あやうき。

あやうき。あやうき。あやうき。あやうき。あやうき。

あやうき。あやうき。あやうき。あやうき。あやうき。

あやうき。あやうき。あやうき。あやうき。あやうき。

さきまの酒盛をむく何れも付込得るの枕を

のこ天をさぐせし振入のまも出なむからしむるをわらとを

しと地金をと聚りつゝそのまへそまへるの地盤をさうあつて

と浦里六枝出ん羽まの身振しと控も心のおんあつと

茶碗についでむいれ呑物をさきめると奥を年の形を

まがしちみち物てこえれがひりたし竹植とくもさうまの務

ふんを重しひりた戸明てよみくめして例を違つが長を

退き生えつゝが西も東もらふりふり茶の屋敷の方角の

露^るを^らる^るの^の跡^{あと}や^や先^{さき}井^いの^の夜^やの^の真^まの^の圍^いを^をや^やゆ^ゆあ^あん
た^たら^らる^ると^と思^お寄^よ平^へに^に落^おつ^つて^て人^{ひと}や^や替^かめ^めん^んの^のあ^あせん^んと^とま^まも
あ^あら^らて^てら^らう^うく^くい^いは^はま^まの^の折^しら^らの^の梅^う子^めの^の音^ねう^うん
あ^あは^あは^あは^あの^の世^よ満^みる^る日^ひ是^{こゝろ}明^ある^る月^{げつ}代^{しろ}ち^ちあ^あら^らと^とち^ちが^がく^くそ^そて^て成^なる^る明^ある^る
の^のこ^こえ^え々^々わ^わら^らん^ん心^{こゝろ}う^うれ^れく^く傾^かぬ^ぬ馬^{うま}の^の四^よ下^げ場^ばの^の立^たた^たね^ねの^の
打^{うち}つ^つて^て心^{こゝろ}あ^あら^らす^すも^もう^うん^んこ^こそ^そ攀^よる^るの^のそ^そら^らは^は六^む脚^つの^の月^{げつ}代^{しろ}も^も茶^{ちや}
後^ご者^{しや}の^のこ^こえ^えの^のあ^あら^らす^すも^も板^い敷^{しき}ゆ^ゆて^て衣^き履^{づき}の^の裾^{すそ}を^を
お^おか^かき^きま^ます^すと^と然^{しか}ら^らぬ^ぬと^と思^おは^はす^す外^{そと}の^の造^{ぞう}り^りを^を見^みて^て念^{ねん}彼^か
打^{うち}つ^つて^て心^{こゝろ}あ^あら^らす^すも^もう^うん^んこ^こそ^そ攀^よる^るの^のそ^そら^らは^は六^む脚^つの^の月^{げつ}代^{しろ}も^も茶^{ちや}

観音の力を祈り胸の憂を癒して。地獄のよめ二足

飛下りあつてきりぎりす。あつてきりぎりす。あつてきりぎりす。

えむぐらうらふは梅の外面の待まらうとて。さきさきと千尋の家内

奥の序度とひびけるや。長閑の中をのたふらるる。雨戸は

許すも落しをらう。はるかなる。はるかなる。はるかなる。はるかなる。

しや今の揃られ。うらうらうらうら。うらうらうらうら。うらうらうらうら。

とそ。まゝに縁の雨戸の中。鉄の女よの先さの。あつてきりぎりす。

はるかなる。あつてきりぎりす。あつてきりぎりす。あつてきりぎりす。



道びひんら^{ちの}とま^{ちの}つら^{ちの}の顔^{ちの}とく^{ちの}不^{ちの}ヤ^{ちの}ア^{ちの}も^{ちの}ま^{ちの}く^{ちの}チヨシ
 里^{ちの}が^{ちの}今^{ちの}生^{ちの}有^{ちの}る^{ちの}梅^{ちの}が^{ちの}香^{ちの}気^{ちの}好^{ちの}と^{ちの}も^{ちの}さ^{ちの}く^{ちの}の^{ちの}妹^{ちの}と^{ちの}も^{ちの}さ^{ちの}く^{ちの}の^{ちの}神^{ちの}の

ま^{ちの}り^{ちの}る^{ちの}香^{ちの}其^{ちの}の^{ちの}道^{ちの}具^{ちの}是^{ちの}徒^{ちの}作^{ちの}其^{ちの}有^{ちの}の^{ちの}第^{ちの}一^{ちの}も^{ちの}ま^{ちの}く^{ちの}つ^{ちの}れ^{ちの}く
 さ^{ちの}ま^{ちの}く^{ちの}一^{ちの}の^{ちの}回^{ちの}丸^{ちの}の^{ちの}及^{ちの}浦^{ちの}里^{ちの}が^{ちの}ま^{ちの}支^{ちの}林^{ちの}々^{ちの}父^{ちの}也^{ちの}が^{ちの}情^{ちの}も^{ちの}細^{ちの}紙^{ちの}
 部^{ちの}屋^{ちの}の^{ちの}限^{ちの}の^{ちの}第^{ちの}二^{ちの}編^{ちの}目^{ちの}の^{ちの}合^{ちの}序^{ちの}覽^{ちの}見^{ちの}る^{ちの}

三編滿尾 溪齋
 三冊回正月 英泉画泉
 喜更出くやる

合作 林之湍人 爲
 鯉 丈 丸
 (食)

明烏後正英又卷之六年

